

空と海をオレンジ色に染める夕日が
日常を忘れさせてくれます

上甑町



5 こしき夕焼け
シルエットライン

とりわけ夕日の美しい場所として、甑大明神橋と鹿の子大橋を結ぶ一帯がお勧めです。視界の先はずっと先まで海。一面をオレンジ色に染めながら水平線に沈む夕日は一見の価値有り。ぜひ、ご堪能ください。

上甑 よかどこ
インタビュー

川畑 兼吾さん
43歳
民宿経営

①甑島(地元)のいいところ
海や山のものを採って食べるなど、本土ではなかなか経験し難い、自然と一体化した体験や観光ができること。

②甑島の未来像(こうなってほしい甑島)
若者が島のことを思って、もう一度甑島に帰って島を盛り上げたいと思える環境を作ることができたらと思います。

③自分の一押し観光スポット・行事
船で渡るなら、弁慶島での磯遊びが親子で楽しめます。自然を眺めるなら、甑大明神橋の夕日や長目の浜が幻想的でとてもきれいです。

甑大明神マラソン大会

毎年11月に開催。潮風を受けながら自然と一体となり、甑大明神橋と鹿の子大橋を駆け抜けます。特産品販売や抽選会も好評です。
*詳しくは、上甑支所産業建設課まで

6 長目の浜

甑島を代表する景勝地の1つ。4つの池から成る海潟湖(*)の長さは約4kmあり、長目の浜湖沼群と呼ばれています。池の水質は淡水、海水、汽水とそれぞれ異なります。展望所からの眺めは絶景です。

(*)かつて海だった所が海と切り離されてできた海岸の湖

7 内侍舞

五穀豊穡を願い、旧暦の9月6日に住吉神社(小島自治会)で奉納されます。白衣に朱色のはかまをはき、頭に冠を着け、手に鈴を持ち、太鼓のリズムに合わせて優雅に円を描きながら舞います。



8 甑大明神

上甑島と中島を結ぶ平成5年に開通した全長420mの吊り橋(写真5参照)のたもとにある「へたの串」。ここでは、列島の名前の由来となった「甑」型の岩があり、この岩をご神体として「甑大明神」が祭られています。



1 甑アートプロジェクト
「甑島で、つくる。」

若手アーティストが甑島に夏の1カ月間滞在し、島内の空き家・空き地・空き倉庫などを活用して作品制作。島全体を展示会場とした展覧会を行います。

時= 8月21日(土)~29日(日)
所= 上甑島・中甑島一帯

歴史と芸術が街中を彩ります
里町

里 よかどこ
インタビュー

平嶺 純子さん
28歳
市観光協会 甑島観光案内所勤務

①甑島(地元)のいいところ
雄大な山と神秘的な海、そして、おもてなし好きな人情味あふれる島民です。甑島に一步降り立てば、そこに流れるのんびりとした「島時間」。コンビニやショッピングセンターは無いけれど、都会には無い、豊かな暮らしがここにはありますよ。

②甑島の未来像(こうなってほしい甑島)
この島は「甑島」という一つの島ですが、各町・各集落で使う言葉も暮らしも文化も違います。そうした違いをそれぞれの土地の特色として尊重しながら、老若男女、生き生きと暮らせる島であってほしいです。

③自分の一押し観光スポット・行事
長目の浜は必見です!! イベントはもちろん、甑アートプロジェクト。暑い夏、若者たちの真剣なまなざしに出会えます。

キビナゴ押し寿司 きびなごピザ 手作りの塩「甑風塩」

新鮮な海の幸を使った料理や特産品も盛りだくさん!!
*詳しくは甑島観光案内所まで ☎09969(6)3930



2 トンボロ (陸繋砂州)

トンボロとは、沿岸流によって運ばれた砂や石が、波風的作用によって水面に現れたとても珍しい地形です。里町のトンボロは南北に約1.5km。北海道の函館、和歌山の串本とともに、日本三大トンボロの一つといわれています。

3 かずらたて

五穀豊穡を祈る祭りで、毎年8月13日、山から採ってきたかずらをつなぎ合わせて綱を作り、それを大蛇に見立てて地域内を練り歩きます。先頭は大漁旗が彩り、化粧をした踊り手が、ほら貝やかねのリズムに合わせて踊ります。



4 里武家屋敷跡

江戸時代、郷士たちの家々が立ち並んでいたころの風情をそのまま残しています。石垣の間から顔を出す四季折々の花々も、心を和ませます。国土交通省の「島の宝100景」にも選定されています。